

コメディリリック第5回「貧乏放し飼い」

「贅沢放し飼い」

登場人物

輝彦

野彦

リーサ

テオ・ポー

倫太郎

ペイリー・チャイルド

担当・ドブ

シロスコフ

※輝彦、リーサ、板付き

【し・明転】

輝彦 「完成だ！完成したぞ！」

リーサ 「あら」

輝彦 「ねずみ講で稼いだ金を全て注ぎ込んだ

甲斐があつた。間違いない出来だ！」

リーサ 「何ができたの？」

輝彦 「夢と現実を反転させる機械だよ」

リーサ 「夢と現実を反転させる機械？」

輝彦 「退廃的なこの街を眺めてずっと考えて

いた…街で暮らす人々を救わなければい

けない…しかし、元凶はこの街で暮らす

人々そのものだ。だから僕は考えた。誰

かが見る夢と現実の世界を反転させるん

だ。そしてこの現実という地獄を夢の中

に閉じ込めて悪夢とする…」

リーサ 「よくわからないけど…それがみんなに

輝彦 「ああ。そうだよ。だって夢が現実にな

るんだ！」

リーサ 「そう…でも、もし入れ替える夢が悪夢

だったらダメじゃない？」

輝彦 「それは…」

リーサ 「私も夢をよく見るわ。昔の男の夢。馬

鹿だったけど、可愛くて、彼といると、

とても幸せだった…その彼が死んだ時の

ことばかり夢で思い出すわ」

輝彦 「…彼はなぜ？」

リーサ 「うどんを食べ過ぎたの」

輝彦 「うどんを？」

リーサ 「世の中にはうどんを食べ過ぎると死ぬ

人がいるってことよ」

輝彦 「そうか…」

リーサ 「あなたは幸せな夢を見るの？」

輝彦 「僕は…僕は…」

リーサ 「リーナの夢を見る？」

輝彦 「そうだね…彼女とのことばかり夢で思

い出すよ」

リーサ 「それは幸せな夢？」

輝彦 「いや、とてもそうは言えないな」

リーサ 「この街に、幸せな夢を見るような人間

いないかもしれないわね…」

輝彦 「そうか…」

リーサ 「待つて、一人自分の夢を紙芝居にして

お金を稼いでいる人間がいたわ」

輝彦 「自分の夢を紙芝居に？」

リーサ 「その紙芝居はいつもすごく贅沢な物語

なの」

輝彦 「てことは……」

リーサ 「その男は贅沢な夢を見ている！」

輝彦 「行こう！」

※輝彦、リーサ、はける

【L・暗転】

※倫太郎、板付き

倫太郎、紙芝居準備

【L・明転】

倫太郎、紙芝居を披露

倫太郎

「倫太郎はこう言いました。テイラー・スウィフトをコーラスで使うぞ！みなは大変驚きます」

倫太郎

「倫太郎のコーラスのために来日したテイラー・スウィフト。しかしコンサート会場に倫太郎の姿はありません。会場はあのかの有名な幕張メッセです」

倫太郎

「その頃、倫太郎はスーパーカーの中で渋谷で一番の鬼ギヤルとカーセックスをしていました。鬼ギヤルの声は声優の林原めぐみそっくりです目を開けると鬼ギヤル、目を閉じると綾波レイとセックスをしていることになりました」

倫太郎

「いい汗をかいた倫太郎はアナスイの香水をドバドバと使用して汗を流します。そしてTWICEのメンバー全員が使用したバスタオルで体を拭きました」

※輝彦、リーサ、登場

リーサ

「いた！」

輝彦

「あの人が」

倫太郎

「腹を空かせた倫太郎は恵比寿のロブションを貸し切りにして今半のすき焼きを

一口だけ食べた後にガーデンプレイスごと全て燃えるゴミに出しました」

「めちやくちや贅沢な夢を見てる」

「いける！…あの」

「なに？」

「あの…あなたのその贅沢な夢を現実らせて頂けませんか？」

「はあ？」

「この地獄のような現実とあなたが毎晩見ている贅沢な夢を入れ替えるんです！

そうすれば…皆が幸せになれます！」

「お前にそんなことができるのか？」

「できます！」

「もし、入れ替えたとして、それが夢だと気づいた場合どうなる？」

「それは…」

「どうなるの？」

「それは世界が消滅してしまう。夢は夢だと気づいた時点で終わりだから」

「じゃあダメだな」

「え」

「喉が渴いた倫太郎はZOZOTOWNの前澤社長が乗る予定だったロケットで月の自宅に帰り、冷蔵庫を開けてシャイ

ンマスカットだけを食べて続けて甘くなったキャンキャンモデルの小便をグラスに注ぎました。その瞬間いつもの担当が現れて倫太郎にこう告げました。「いい加減にしないか。これは夢だ」と」

「え」

「俺の夢には必ず「これは夢です」と教える担当がいて、俺は必ず夢だと気づく」

「え」

「そんな…」

「残念だったな」

「とりあえず君の夢を覗かせてくれないか？」

「そんなことができるの？」

「うん…この目で君の話が本当か確かめたい」

「嫌だよ」

「頼む！お願いです！この通りです！」

「こんなに誠実にお願しているのよ？」

「そんなこと言ったって…起きてるし」

錠剤を口に詰め込むリーサ

眠る倫太郎

リーサ 「これでOKよ」

倫太郎の夢を覗く輝彦

【L・暗転】

※リーサ、輝彦、はける

3. 屋敷・夢の中

※担当、倫太郎、板付き

【L・明転】

倫太郎 「じゃあ今日から乃木坂46は俺と暮らすこと！全員な！全員！」

担当 「無理です」

倫太郎 「なんで？」

担当 「これは夢です」

倫太郎 「…そうだー。ふざけんなよ！お前また教えたな！」

担当 「最近、度が過ぎる。欲求がひどいよ」

倫太郎 「この野郎！お前なんか殺してやる！」

汚く争う倫太郎と担当

担当が倫太郎を突き飛ばす

倫太郎 「ちくしょう！うう…うう…」

【L・暗転】

※担当、はける

4. 路上・夜・現実

※輝彦、リーサ、倫太郎、板付き

【L・明転】

輝彦 「担当いた！」

リーサ 「うそ？」

倫太郎 「……………だろ？」

リーサ 「起きた」

倫太郎 「夢を覗かれると気持ち悪くなるな…」

輝彦 「また別の誰かを探さないと」

リーサ 「ねえ、輝彦さん。あなたの夢を覗かせてくれない？」

輝彦 「…え？」

リーサ 「私、リーサの姿をこの目で見たいわ」

輝彦 「いや、それは…ダメだよ」

リーサ 「なんで？」

輝彦 「だって、僕はリーナと…」

リーサ 「分かっているわ。だから嫉妬心でもあるの。でも一度見たら気が済むわ。だから

お願い、あなたの夢を覗かせて…」

輝彦 「それはちよつと…」

輝彦の首を後ろから絞める倫太郎

落ちる輝彦

リーサ 「ちよつと！」

倫太郎 「俺だけ覗かれちゃ悔しいだろ。ほら今のうちだ」

リーサ 「うん…」

輝彦の夢を覗くリーサ

【L・暗転】

※リーサ、倫太郎、はける

5. ホテル・夢の中

※輝彦、板付き

【L・明転】

リーナを殺した直後の輝彦（ピタT）

輝彦 「リーナ…リーナ…そんな…僕は…なんてことを…」

【L・暗転】

6. 路上・夜・現実

※輝彦、リーサ、倫太郎、板付き

【L・明転】

驚くリーナ

リーサ 「そんな…この人が…この人がリーナを

…」

輝彦 「リーサ、違うんだ」

リーサ 「何が違うの…あなたがリーナを殺したんでしょ！」

輝彦 「僕は…そう、僕はリーナを殺した」

倫太郎 「次は俺の番な。俺が女の夢を覗く」

リーサ 「なぜ…」

輝彦 「彼女を愛していたんだ…だから…だから僕は…」

リーサ 「許せない…」

倫太郎 「次は俺の番な。ちゃんと平等にしようぜ」

輝彦 「わかった。じゃあ君の手で僕を殺してくれ」

リーサ 「え」

輝彦 「君にはその権利がある。僕を裁いてくれ」

リーサ 「いや…できない」

輝彦 「君にしかできない」

リーサ 「できない！私は、私は、あなたを愛してる」

※ドブ、登場

輝彦を見つけて

ドブ 「おお！お前！」

輝彦 「あなたは…穴の」

ドブ 「出れたぞ！俺も出れたぞ！穴掘って埋めるだけじゃ終わらなかったぞ！」

「SE・銃声」

倒れるドブ

ドブ 「がはっ」

輝彦 「追手が！」

倫太郎 「次は俺の番って言ってるだろ！」

リーサ 「うわああああ！」

リーサ、ドブの頭に装置を付ける

「SE・ぐわわわくん」

「L・ピカピカ」

「L・暗転」

「L」 オットセイの国・夢の中(反転後)

※全員、板付き

「L・明転」

全員、オットセイになってオウオウ言ってる

「モニター」

「カワサキは「オットセイの国」となりました」

---

「放し飼いにされたオットセイたちは皆で平和に暮らしました」

「鬼畜蔓延る現代」

「蔓延する言葉の暴力」

「法外なりボ払いの利子請求」

「そんなものが支配する人間社会よりも」

「オットセイの国」で暮らした方が平和かもしれません」

「でも」

「人間の国」で生きるあなたの方が賢いです」

【L・暗転】

—完—